

船舶事故調査報告書

平成24年12月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成23年11月29日 08時00分ごろ
発生場所	北海道島牧村千走漁港岸壁 (概位 北緯42°41.2′ 東経139°59.8′)
事故調査の経過	平成24年7月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第五十一萬漁丸、17トン HK2-20812（漁船登録番号）、個人所有 16.70m (Lr) × 4.24m × 1.98m、FRP ディーゼル機関、573.70kW、平成2年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 44歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成元年4月7日 免許証交付日 平成20年11月20日 (平成26年4月6日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損（船橋、機関室、船員室等が焼失）
事故の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、千走漁港魚市場前岸壁に左舷着けして漁獲物の荷揚げ作業をしたのち、氷詰め作業を行うために約10m船首側に移動し、船首甲板において乗組員及び手伝いの者により、夕方に出漁する準備のため、氷の積込み作業中、平成23年11月29日08時00分ごろ、船長が、岸壁の製氷施設にいた島牧漁業協同組合（以下「組合」という。）の氷担当者から、機関室の吸排気ファンから煙が出ている旨を知らされた。</p> <p>船長は、船首甲板から機関室の船尾側にある船員室へ行き、同室内にある機関室の戸を開けてのぞいたところ、機関室内が何も見えないほど煙が充満しており、火災と判断して船橋へ向かい、アイドリング運転中であった主機関と運転中であった機関室の吸排気ファンを停止した。</p> <p>船長は、船橋の床にある機関室出入用の開口部等から、組合の職員等と共に船橋にあった消火器及び組合から運んだ消火器を機関室内に</p>

	<p>噴射し、初期消火を行ったが、火勢が衰えなかったため、組合の職員に消防署への通報を依頼した。</p> <p>本船は、08時49分ごろ到着した消防車両により放水による消火が開始され、10時15分ごろ鎮火した。</p> <p>本船は、機関室、船橋、船員室等の焼損が激しいため、廃船にされた。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 3</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>船長は、氷詰め作業を行うために本船を移動する際、船首甲板から船橋に赴いて操船したが、異常を感じなかった。</p> <p>本船は、船体中央付近に船橋が、船橋の下側に機関室が、機関室の船尾側に船員室がそれぞれあり、また、船員室の前壁に機関室への出入用の戸が、船員室左舷壁に船員室扉がそれぞれあり、どちらの戸も、本事故当時、閉まっていた。</p> <p>船長、乗組員、荷揚げ等の手伝いの者は、船首甲板での荷揚げ及び氷詰め作業中、何も異常を感じなかった。</p> <p>本船は、粉末消火器が、船橋に持運び式のもの1本、機関室に自動拡散型と持運び式のものそれぞれ1本の計3本備えられていた。</p> <p>本船は、集魚灯用安定器が船員室の船尾側船底付近の部屋に備えられていた。</p> <p>本船は、平成22年1月に千走漁港防波堤の内側の岸壁に係留中、大波を受けて船員室扉及び機関室吸排気ファンが破損して海水が流入したので、発電機、電気配線等が整備又は新替えされた。</p> <p>本船は、いか釣り漁の準備として平成23年4月ごろに九州において、電気系統の絶縁抵抗を計測し、異常がなかった。</p> <p>本船は、中間検査を平成23年10月に受けていた。</p> <p>船長は、機関室を見回ったのは、本事故前の作業中の1回であり、異常がなかった。</p> <p>本船は、本事故後の調査において、船橋は、床が焼け落ち、内部が、熱気により焦げた状態であった。</p> <p>機関室は、主機関の上部付近から上側が焼損し、下側はほとんど燃えておらず、全体的に後部側よりも前部側が、左舷側よりも右舷側の方が、それぞれ焼け方が激しく、また、バッテリーが、主機関前部側の床に主機用、航海計器用及び船内電源用とし、それぞれ2個計6個備えられ、その上方に棚が設けられて充電器及び変圧器が置かれていたが、これらの焼損が激しかった。</p> <p>船員室は、機関室寄りの天井が焼け落ち、右舷側中央付近にガス台があったが、ガスの元栓は閉まっていた。</p>
分析 乗組員等の関与	なし

<p>船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし</p> <p>本船は、千走漁港魚市場前岸壁に左舷着けし、船首甲板で氷の積込み作業中、機関室の右舷前壁付近から出火したものと考えられる。</p> <p>機関室は、右舷前壁付近の燃損が激しいことから、同付近から出火した可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、千走漁港魚市場前岸壁に左舷着けし、船首甲板で氷の積込み作業中、機関室の右舷前壁付近から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に機関室の見回りを行うこと。 ・早期に火災等の異常を発見するため、機関室への火災検知器の設置が望まれる。